

速報

オスロでのクラスター爆弾禁止条約署名に向けて

ラオス政府主催 東南アジア地域会議開催

10月20日より22日までの3日間、ラオス政府は、ノルウェー政府、オーストラリア政府と国連開発計画（UNDP）の支援を受けて、クラスター爆弾の被害が世界で最もひどいラオス北部のシェンクワン州にて、政府高官による地域会議を開催した。この会議の目的は、12月3日にノルウェーのオスロで開かれる調印式に、アジア地域の国々の多くが参加するよう機運を盛り上げることにあった。

会議には、アジア地域から、既に公式に署名の意思を発表したカンボジアとラオスのほか、ブルネイ、インドネシア、ミャンマー、タイ、ベトナムの政府代表が参加した。ここで、ベトナム政府は、10月28・29日の両日、ハノイでクラスター爆弾禁止条約に関する初めての国内会議を開くことを発表し、5月のダブリン会議にオブザーバーとして参加していたタイは、署名について検討中であることを明らかにした。

それ以外のブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンも、ダブリン会議で条約を採択した国々なので、12月の署名が期待される。

アジア地域の国々のほか、重要な支援国として、オーストラリア、フランス、ドイツ、インド、アイルランド、ノルウェー、日本の各政府と、国際機関からUNDPと国際赤十字委員会、市民社会の代表としてクラスター兵器連合（CMC）が招待された。CMCでは、アジア6カ国（カンボジア、ラオス、タイ、フィリピン、ベトナム、日本）を含む12カ国からキャンペナーが参加した（日本のキャンペナーとしてJCBLから内海が参加）。

ノルウェーのコングステッド外相は、開会式にて12月3日にこの地域の多くの国々が署名するよう強く訴え、既に署名の意思を発表したラオスとカンボジアの政府に敬意を表した。オーストラリア代表は、この会議で12月の署名を公式に発表し、会場は拍手喝采となった。既に署名を明らかにしているドイツ代表は、この条約の支持を改めて強調し、悲惨な被害をなくすために条約の普遍化を訴えると述べた。

アジア地域からは、マレーシア、シンガポール、フィリピンがこの会議を欠席した。シンガポールはこの地域で唯一クラスター爆弾を生産、輸出している国で、オスロプロセスには全く参加していない。フィリピンも欠席ではあったが、本国では、この条約についての検討を続けている、という情報がキャンペナーを通じて伝えられた。

CMCは、アジア地域のすべての国々が、最も被害を受けているラオス、カンボジアと一緒にこの禁止条約に署名し、一刻も早く被害をなくすために動くよう訴えた。多

くの国々がこの条約に参加することで、この悲惨な被害を引き起こす兵器は使用すべきではない、という考えを広めることができ、それによってたとえ条約に入っていない国でも、実際にこの兵器を使うことができなくなる。これは、対人地雷全面禁止条約での経験から既に明らかになっている。

この会議の会場は、世界中で最もひどいクラスター爆弾の被害を受けたシエンクワン州であった。そこはベトナム戦争時に何百万個の子爆弾がばら撒かれた。その多くは爆発せずに残され、今でもそこに暮す人々を殺し、またひどく傷つけ、本来なら豊穡な農地になりうる広い土地が使えないまま残されている。

100人を超す会議の参加者は3日間の会議のうちの1日、フィールドトリップとして被害地を訪ね、実際に不発弾が大量に残されている現場とラオス不発弾センターによるその処理、近隣の学校で行なわれている危険回避教育を見学した。百聞は一見にしかず。ラオスが直面している現実を目の当たりにした参加者が、それぞれの国に帰ってより真剣にこの問題に取り組むようになることを期待している。

2008年10月24日

文責 内海句子